



学校だより

平成28年度 第1号
発行日 4月13日
練馬区立大泉第二中学校
校長 神山 信次郎

夢を持つのはいつ？

校長 神山 信次郎

入学式の時、2016年はオリンピックイヤーという話をしました。今年はブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開催されます。日本、世界のアスリート達は、個人として、チームとしてオリンピック出場、メダル獲得に向け、練習を積み重ね、全力で試合に臨んでいるところです。

先週、競泳、日本選手権兼リオデジャネイロ五輪選考会が開催されました。どのレースも手に汗握るものでした。選考基準は、決勝レースでオリンピック派遣標準記録を突破し、なおかつそのレースで2着に入ることです。皆さんも知っている北島康介選手は日曜日引退の記者会見を開いていました。彼の出場種目は100m、200m平泳ぎでした。100mでは予選でオリンピック派遣記録をクリアしましたが、決勝で0.3秒たりずオリンピック出場を果たすことができませんでした。約20年チーム北島で平井コーチと一緒にオリンピック出場、メダル獲得を夢に頑張ってきましたが、ここで夢が途切れしました。本当に本人としては悔しい結果だと思いますが、潔く引退を決めた姿には、さすが北島康介という感じがしました。記録に残るレースは？と聞かれ「全国中学生の大会で初めてライバルに勝ったレース」と答えています。原点は中学生にあったわけです。「夢」を持つと言うことは、こんなにも大切であるかと感じさせられました。

また、オリンピック出場だけが夢ということではなく、身近なところで、ある卒業生の話もしましょう。彼は鉄道が好きで、中学入学直後から、将来は電車の運転手になることが夢でした。彼はどうしたら夢に近づけるかを考え、まず鉄道会社に就職しやすい高校に進学しました。そこでしっかり勉強し、見事、鉄道会社に入社しました。現在は駅員として活躍をしていますが、運転手になるにはここからさらに勉強をしなければならないとのことでした。その夢に向かいさらに勉強しているそうです。その彼に会ったとき、生き生きした姿、キラキラしたまなざしは素晴らしいものでした。

スポーツだけではなく、文化、芸術などいろいろな「夢」があると思います。夢を見つけ、その実現のために、充実した学校生活を送ってください。夢の原点は中学生。ただ、「夢」を実現するには、勉強することが大切であることを忘れずにいてください。今年1年の皆さんの活躍に期待します。